

## 江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0212 NO92

校長 伊波喜一

這えば立て 立てば歩めと 親願う 制服の価値 問うは何かと

銀座では、標準服の値と決め方をめぐって議論が巻き起こっている。標準服の値段も含めて、伸び盛りの小学生にアルマーニが良いかどうかは、確かに意見が分かれるところであろう。 筆者が小学校一年次の学級集合写真が手元にある。もう半世紀も前の写真であり、セピア色に変色している。学級の児童数の多さもそうだが、おしなべて服装が質素だ。男子は詰め襟服が多く、女子はおかっぱ頭が目立つ。詰め襟の肘には手のひらサイズのアテがあたっていて、一目でお下がりを着ていることが分かる。 お下がりという言葉は今では死語だが、当時はどこの家庭でも行われていた。今のよう物が豊富にある時代ではなかったのも、兄や姉の着たものは弟や妹にお下がりした。着回すので着古され、その分ほころびが出る。その綻びを上手にアテ、補強する。膝や肘は元より尻にもアテをした。アテを気にして遊ぶ子はいなかった。みんな、アテが取れるぐらい来る日も来る日も夢中で遊んだ。 服が汚れたり破けたりするのを気にせず、遊びくらしした少年時代を持てたことは、宝ものである。